

令和2年度 フロンティア科「出前講座」

- 1 日時 令和2年6月12日（金） 13:50～15:50（120分）
- 2 講師 宮崎県教育委員会 スポーツ振興課 生涯スポーツ担当 山本 敏 主幹
- 3 演題 宮崎県のスポーツ振興の取組について
- 4 感想

1年H組 垣内 琉月

宮崎県がスポーツ振興のために幅広く活動していることにとても驚いた。国体の順位 **up** のために、アスリート雇用へ受け皿づくりやプロの指導者の確保、環境状況の整備に力を入れていたのは知らなかった。特に宮崎は大型のスポーツジムが少なく練習場所がありません。冬季の種目になると雪が降らないのもものすごく弱くなります。そのような状況の改善というのは本当に利益ある行動だと思います。意外だったのが全国体力テストの宮崎県の順位が11～15位など上位にいることです。子どもたちは近頃、ゲームやスマホへと遊びの種目が変わってきています。そうすると運動しなくなり、上位に入り込むのも夢の話になります。成人のスポーツ参加率が減少している中で、宮崎はアプリを活用しています。アプリに万歩計のようなものを内蔵しており、それがたまると **QUO** カードや宮崎で使える商品券がもらえるようなしくみになっています。この活用によって成人のスポーツ実施率が40%を上回ることを目標にしているそうです。1130 県民運動という県全体での取り組みも行われているそうです。障がいがある人でもスポーツをしっかりと楽しんで生きがいを感じてほしいなと思いました。

1年I組 河野 由歩

本日の講座で宮崎県がスポーツ振興にこれだけ多くの取り組みをしていることを知った。以前、ニュース番組で宮崎は九州の中で最も肥満率、健康率が低いという内容があった。その原因は宮崎県民の交通手段が自家用車が基本であるからだという。そのため「SALKO」というウォーキングアプリは私たちにぴったりのアプリではないかと思った。このようなアプリや、県内で行われているスポーツイベントのことをまだ知らないという県民もたくさんいるのではないかと思う。そのような人たちに知っていただける機会があれば、スポーツ参画人口も増加し、健康寿命も高くなるのではないか。私が中学生のとき、障がい者スポーツのイベントにボランティアとして参加する機会があった。私自身も初めて障がい者スポーツに触れたが、正直イベントの参加者はとても多いといえるほどの人数ではなかったように思う。そのため障がい者スポーツは健常者も含めて、より広く普及していく必要があるように思った。障がい者スポーツは普通のスポーツに比べてだれでも簡単にプレイできるものもあるので、世代を越えてともに楽しめる素晴らしい世界共通の文化の一つであると私は思う。

